



# 群青小高

Artist In Residence  
in Minamisoma  
Gunjo ODAKA

図録  
2025



Artist In Residence  
in Minamisoma  
Gunjo ODAKA

## 目次 Contents

概要	2
市民アートサポーター	2
招へいアーティスト -滞在制作を経て-	
塚原 るな 氏	4
船山 哲郎 氏	6
桑田 早綺 氏	8
竹丸 沙織 氏	10
おわりに	12

## 概要 Overview

南相馬市文化芸術ふれあい事業  
アーティストインレジデンスみなみそうま  
「群青小高」2025について

南相馬市は、文化芸術ふれあい事業「アーティストインレジデンスみなみそうま『群青小高』2025」を開催しました。アーティストインレジデンス (AIR) とは、招へいされた芸術家が一定期間ある土地に滞在する中で、作品制作やリサーチ活動を行う事業のことです。アーティストのみなさんの視点から、小高区を表現してもらい、作品を通して地域内外の方に小高の新たな魅力を発信する目的で実施しています。

令和7(2025)年8月~10月の期間で実施し、4名のアーティストはそれぞれ2週間ほど滞在予定を組み、10月10日~13日の計4日間、展示会を行いました。

招へいアーティストは、南相馬市のWEBサイト、「群青小高」特設WEBサイトにて募集し、応募動機やポートフォリオなどをもとに、小高区への興味関心、テーマ設定など、事業全体のバランスと「新たな視点」を重視し、4名のアーティストを選考いたしました。

またAIR実施に際し、アートサポーターとして小高区在住4名の方にご協力いただき、アーティスト滞在中のサポートや地域住民との接点をつくるなど、担当職員とともに企画、招へいアーティストの選定など運営を行いました。

## 市民サポーター Supporter

### 瀬下智美 Tomomi Seshimo

アーティストさんに必ず案内する大悲山(国史跡「薬師堂石仏」)。今年本格的な発掘調査が行われ、9世紀前期頃に造られたと推測される土器、火を使う仏教儀礼の痕跡などが発掘された。今回で5回目となる本事業ですが、震災と原発被災後の小高の表情は刻々と移ろい、1年の後でも大分違う。その一方、古来の史跡について新情報が発信され、古の人々の暮らしに思いを馳せる。そのどちらの記憶も共有できていることが幸いです。

### 森山貴士 Takashi Moriyama

今年も多様な方々に応募いただきありがとうございました。その中で書道家の竹丸さんをお呼びしてみたり新しいチャレンジもありましたが、気がつけば参加したみなさんが丁寧に地域と向き合いながら作品を制作しているいつもの群青小高でした。見応えのある作品として完成したもの、まだこれからの道のりを示してくれたもの、短い期間の中でのアウトプットは様々ですが、それぞれの試行錯誤の足跡からまた新しい小高の魅力を見つけてもらえたら嬉しいと思います。

### 西山里佳 Rika Nishiyama

5年目となりました。アーティストの表現の多様さは1年目からの群青小高らしさではありますが、今回はまた一味違う皆さんに参加いただけました。フィールドワークで感じたものを新たに表現する方、取り組まれている蓄積の一つとして小高を舞台に…と、それぞれの表象が小高で交わる瞬間を見ることができ、幸せに感じます。また、これまでの参加アーティストともつながりが増え、重なったことも5年目ならではの感じました。今年参加いただいた皆さんにも、またぜひ小高に帰ってきて欲しい。つながり続ける可能性を感じた5年目でした。

### 久留飛雄己 Yuuki Kurubi

5年目の群青小高は選考の段階からこれまではなかった色をアーティストさんに足してもらおうという目標がありました。振り返ってみるとご参加くださった皆さんそれぞれ丁寧に時間をかけてリサーチを行い、ご自身で納得のできる形まで小高と向き合ってくださいと感じています。その上で、これまでにはないアウトプット方法でそれぞれ小高の魅力を発信していただきました。私自身も今年は関わりしるが多かったので一緒にリサーチに同行しながら各アーティストさんたちの新鮮な目線を通して小高を捉え直すことは喜びの日々でした。ありがとうございました。





「歩く」 佐藤松寿堂表具店・JR小高駅 / 2025年10月10日(金)~13日(月・祝)

## Artist

美術作家  
塚原るな氏  
Runa Tsukahara



2001年佐賀県出身。女子美術大学大学院博士前期課程在学中。「記憶」をテーマに制作を行っています。風景をモチーフに身体が感じる湿度や温度、風や匂い、音などの記憶を扱っています。いつの間にか変化していく情景や自身の心情を軸に様々な手法で形態を取り作品を作っています。

福島という地、小高に初めて訪れたとき、なぜかとても落ち着く場所だと感じました。特に印象に残ったのは空の色です。普段目にする空とは異なり、小高の空は少し紫がかかっていて、群青色のようにも感じられました。そんなときめきにも似た感覚とともに、滞在が始まりました。

滞在中は、主に地図を見ず、進みたい方向へ自転車を走らせたり、歩いたりしながら探索を行っていました。夕方になると駅のホームが学生でいっぱいになること、道の途中で突然行き止まりになる場所があること、小高川には形の異なる橋が複数かかっていること。川沿いを歩いていると、カエルが靴の上に乗ってきたこともありました。街を探索していると、不思議に思うことや気

になる場所に次々と出会い、幼少期に戻ったような気持ちで、わくわくしながら歩いていました。

滞在を通して見て、感じたものを小高で伝えたい。私を感じた「今の小高」の魅力的な場所を届けたいという思いから、手紙を制作しました。内容は、実際に訪れてほしい場所を記した地図と、その場所の写真です。展示は小高駅と佐藤松寿堂表具店の二箇所で行いました。駅には手紙と、その詳細を簡単に記した文章を配置し、佐藤松寿堂表具店では、手紙に加えて滞在中に撮りためた写真の冊子やドローイングを展示しました。

手紙に記した場所に実際に足を運んでくださった方や、展示を見て言葉を交わした時間

は、作品を通して生まれる一つのコミュニケーションだと感じました。その中で、地元の方が独り言のように「復興ってなんだろうね」とこぼした言葉が印象に残っています。震災前の姿にはもう戻らないこと、新しい建物が増えていくことが必ずしも良いとは限らないこと。その言葉を受け、直接経験していない私が記憶の残るものを扱うこと、それは表現において考え続ける必要があると感じています。

また、短い時間ながらも充実した滞在となったのは、体調や制作を気にかけてくださった方々や、サポーターの皆さんのおかげです。まだ知らない小高の面白さがあることを感じているので、また小高に帰りたいと思います。





「一の鳥居：南相馬悉皆」 アーティストインレジデンス施設「KONNO」 / 2025年10月10日(金)~13日(月・祝)

## Artist

美術家/研究者

船山哲郎氏

Tetsuro Funayama



岩手県出身。建築や空間デザインを学んだ後、アート表現に関わる制作・研究を始める。周辺環境に対して新たな体験を創出する屋外インスタレーションを主たる表現とし、日常では意識されない「見えない景観」をテーマに、フィールドワークを手掛かりとした制作実践と研究を続けている。近年は東北の沿岸地域に無数に存在する神社と鳥居を探し歩き、その姿を記録している。

小高に滞在しながら、南相馬市内の神社を巡り、そこに建つ〈鳥居〉を撮影し続けました。

私たちが暮らしの中で神社の存在を認識する時、まず初めに目にするのは〈鳥居〉です。鳥居のある風景は、日本に暮らす人々にとってごくありふれたものです。しかし、あまりにありふれているため、神社を訪れたとしても、鳥居に意識を向けることは少ないのではないのでしょうか。

私は群青小高の滞在期間を通じて、南相馬市内全域を訪ね歩き、風景の中に隠れた鳥居を撮影し続けました。滞在が始まる前から複数の地図を照らし合わせ、市内のどこに神社があるか、目星をつけてから現地に入りました。小高に到着してからは、自分で書き込みをした地

図を頼りに、市内の隅から隅までバイクを走らせ、神社と鳥居を搜索する日々を過ごしました。道なき道を進まないと辿り着けない神社/地図には載っているものの、既に姿を消してしまっている神社/地元の人しか知らない、地図には載っていない神社/社殿は残っているものの、鳥居は撤去されてしまった神社など、道行く地元の人に情報を聞きながら神社を巡る体験は、まるでロールプレイングゲームのようでした。

結果的に、南相馬市内で出会うことのできた神社は、全部で174社(小高34/原町81/鹿島59)。撮影できた鳥居は152基でした。おそらく市内には、私が発見できなかった神社と鳥居がまだあることでしょう。

今回の作品では、失われつつある地域コミュニティのメタファーとして〈鳥居〉を捉え、いずれ地域の全ての神社が合祀された時に立ち現れるかもしれない【一の鳥居】を多重露光の写真作品として表現し、KONNOの障子として設えました。展覧会では、神社の分布図を見ながら、地元の方々さまざまなエピソードを語って下さるのが印象的でした。私が滞在期間中に向き合ってきたのは〈鳥居〉でしたが、最後には作品を通じて、期せずして地域のさまざまな情報を知る機会を得ることとなり、とても充実した滞在制作となりました。





「家をたてる」 小高教会幼稚園 / 2025年10月10日(金)~13日(月・祝)

撮影：竹下和輝

## Artist

美術作家

桑田早綺氏

Saki Kuwata



2002年東京都生まれ。多摩美術大学環境デザイン学科卒業、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科在籍中。土地に積層する営みや人のふるまいに着目し、目に見えない生活の痕跡や気配を空間として立ち上げる映像・空間表現を行っている。

初めて小高を訪れたのは昨年秋。福島県出身の友人に連れられ車で訪れた際、町に流れる時間の質感と、長く続く一本道が生む奥行きに、強く惹きつけられたのを覚えています。

私はこれまで〈地面〉と、そこに積層していく人々の営みを主題に制作を行ってきました。学部時代には、人の住まなくなった土地や地域から感じられる生活の気配に言及することも多く、その延長で「浜通り地域についてはどのように捉えているのか」と問われる場面もありました。そうした問いに自分なりに向き合いたいという思いも、今回群青小高に応募するに至った背景の一つです。

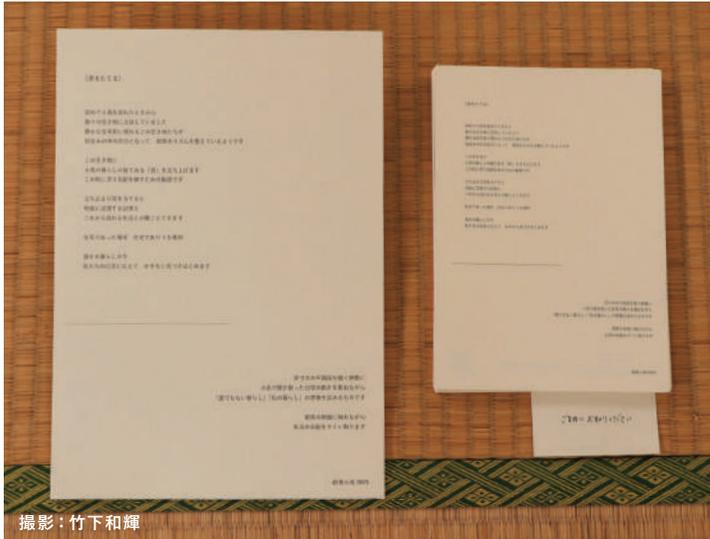
人が暮らしてきた土地に、現在の生活がどの

ように流れているのか。景観は何を語るのか。小高にある日常の手触りを受け取り、それらを書き留めていくことは、現地への滞在なしには叶わないと感じます。そのような意味でも、今回の滞在は私にとって貴重な時間となりました。

成果展示では、町の景観を形作っている「空き地」に目を向けた映像作品を制作しました。架空の平面図を現地に実寸大で描き、その場で過ごす映像に、地域の方々の語りを再構成した朗読を重ねるものです。画面の中で立ち現れてくる暮らしは、かつての生活の再現ではなく、誰のものか分からない、そして誰のものでもある「小高の暮らし」です。かつて住宅があった町の余白が、失われたものの跡や再開

発の対象としてのみ扱われるのではなく、これからの他者や生活を招く器になりうること。そして、異なる時間がここに同時に存在していることを静かに示すような作品になっていれどと思います。草が豊かに茂る土地を、想像の余白として捉えながら町を歩く時間は、何よりも心地よく、楽しいものでした。

小高交流センターなどでお話をさせていただいた方々、地域の皆さま、市役所・サポーターの皆さまに深く御礼申し上げます。小高での暮らしが今後も豊かにありますように。



撮影：竹下和輝



「少子高齢化もあるし  
どんどん増えていくな 全国で



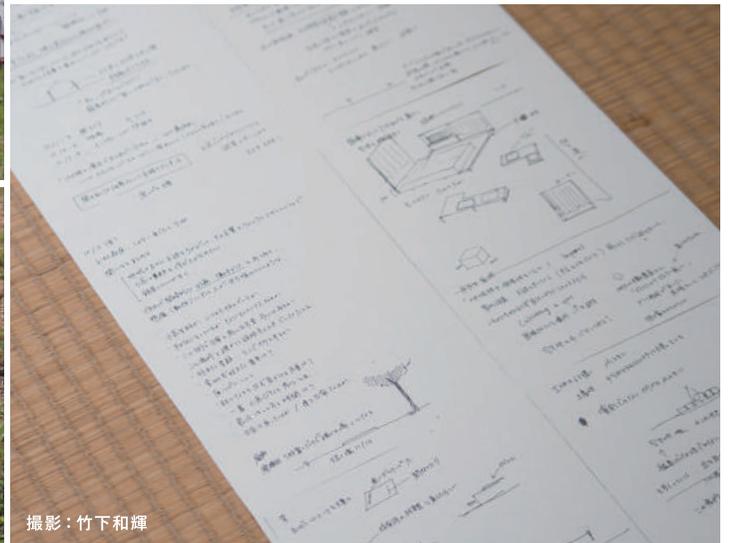
「わからない  
でも空き家より空き地が多いみたい



あ、ここ玄間ね



撮影：竹下和輝



撮影：竹下和輝



撮影：竹下和輝



「ここへ還す」 鈴木家住宅 / 2025年10月10日(金)~13日(月・祝)

## Artist

### 書道家

## 竹丸沙織氏

Saori Takemaru



1997年鹿児島生まれ。現在鹿児島を拠点に活動中。大学卒業後、高校の家庭科教諭として働く。その後、書道家の活動を始める。2歳から書の世界に入り書道歴は26年。書道というコミュニケーションツールを活かし、パフォーマンスやワークショップ、個展等を通して表現の楽しさを伝える活動をしている。「流書®」を独自の書のスタイルとし、自然からのインスピレーションを元に即興制作する作品を多く生み出している。

東日本大震災は私の人生で最も衝撃的な出来事でした。あれから14年、私に何かできることはないのかと自問自答する日々が続きました。そして、この土地にどのような暮らしが息づいているのかを自らの身体で感じたいと思い、群青小高の参加に繋がりました。

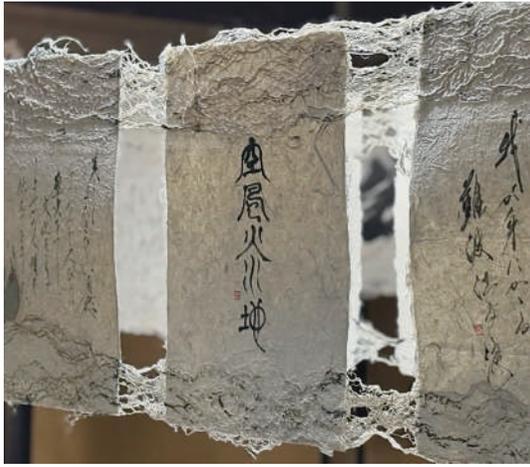
滞在中は、多くの方のご協力をいただき、小高の歴史を知り、人の温かさに触れることができました。小高での暮らしはとても心地よく、まるで以前からこの場にいたかのような感覚を覚えました。

成果発表では、「ここへ還す」というテーマをもとに鈴木家住宅で展示・書道パフォーマンスをしました。「葉はいつれ落ち葉となり土に還

るように、小高でいただいた言葉(言の葉)を書に託して小高の土地に還したい」という想いでこのテーマに決めました。主に史跡に刻まれた言葉や対話で生まれた言葉、そして小高に身を置くことでわたしのところに生まれた言葉を書にしました。また、滞在中に開催した言の葉ワークショップの作品も展示しました。地元の人や小高を訪れた人たちが感じる小高の魅力を書にしてもらいました。この作品は蚊帳の中に展示することで、言の葉が土に還り、小高の栄養になることを意味しました。実際に蚊帳の中に入り作品を見た方が一言、「わたしはこのまま生きていいのかもしれないと思えました」と心の内を明かしてくれました。この方は、

東日本大震災以降自身が生き延びることに悩んでいたようです。私はこの言葉を聞き、胸を締め付けられるのと同時に、言葉の重みを再確認しました。言葉は人を癒すことも傷つけることもできるコミュニケーションツールです。私は前者のために言葉を使っていきたいです。今回の滞在中で書を通して誰かの心に寄り添うことができたら嬉しいです。

小高で滞在中制作をできたことが一生の宝物です。これからも小高を感じ、その魅力を伝えるために何度も足を運びたいです。小高は「また帰りたい」と思える素敵な場所です。また小高に会いに行きます。



## おわりに

### Conclusion

今年で群青小高は5年目を迎えました。今回で5回目となる本事業でしたが、これまでとは異なる、新しいフィールドで活動されているアーティストのみなさんをお呼びしました。

今年度はそれぞれのアーティストの滞在期間が重なることが多かったこともあり、アーティストのみなさん同士で和気あいあいと、時にはお互いの悩みを共有しながら、熱心に小高にてリサーチや制作に打ち込んでいただいていたと思います。

そして、レジデンスの成果をお披露目した展示会には、お散歩ついでに寄っていただいたご近所の方や展示会のために県外から足を運んでくださった方など、市内外問わず多くの方にお越しいただきました。アーティストのみなさんの素敵な作品を通して小高の魅力をお伝えできたかと思えます。

最後になりましたが、このたび本事業にご参加されたアーティストの皆様、ご協力いただいたアートサポーターの皆様には心より御礼申し上げます。また、展示会の会場をご提供いただいた佐藤松寿堂表具店様、小高伝道所飯島信牧師、鈴木安蔵を讃える会会長志賀勝明様、KONNOにてレジデンスをサポートいただいた竹下和輝様、そして地域住民の皆様がこの場をお借りし、深く感謝申し上げます。

令和7年度南相馬市文化芸術ふれあい事業  
アーティストインレジデンスみなみそうま  
「群青小高」2025 図録

令和8年3月発行  
編集・発行：南相馬市教育委員会  
事務局：南相馬市教育委員会事務局 生涯学習課 文化振興係  
〒975-8686  
福島県南相馬市原町区本町二丁目27番地  
TEL 0244-24-5249



第18回 南相馬市総合美術展覧会 市美展にて「群青小高 紹介ブース」の展示



第9回おだかつながる市でトークイベント「プレイバック AIR みなみそうま 群青小高2024」を開催

<https://www.youtube.com/watch?v=Xw6ewaexjv4>



過去の群青小高の様子はコチラから！

[群青小高 特設WEBサイト]  
<https://air-minamisoma.jp/>



滞在アーティストが活動風景を随時更新！

[Instagram]  
[https://www.instagram.com/gunjo\\_odaka/](https://www.instagram.com/gunjo_odaka/)

